



屋城本丸御殿が、平成 30 年 6 月 8 日に完成公開しました。

慶長 20 年(1615)徳川家康の命により、本丸御殿は、建てられました。当初は初代藩主徳川義直が住居かつ藩の政庁として使われていましたが、義直が、二之丸御殿に住まいを移した後は、将軍上洛の際の宿舎となりました。室内は山水花鳥、獣、人物などを画題とした障壁画や装飾金具などで絢爛豪華に飾られ、建築・美術史においても高く評価を得て、昭和 5 年(1930)には天守閣とともに国宝第一号にされています。しかし残念なことに昭和 20 年(1945)5 月 14 日、空襲により焼失しました。

復元された本丸御殿は、近世書院造の建造物で、総面積 3,100 m²、13 棟の建物で構成されています。対面儀礼を行った『表書院』のほか、徳川家光が宿泊するために建造された最も格式の高い『上洛殿』、内臣や身内との対面や宴席に使用された『対面所』、将軍の浴室として使われた『湯殿書院』、清洲城から移築されたと伝わる『黒木書院』など複数の書院を備えています。それぞれの建物に使用目的が明確にされており、部屋の格式により天井や、欄間、装飾金具などの意匠が大きく異なるその姿を、ひとつひとつじっくり楽しむことができます。

また障壁画の復元模写は、平成 4 年から始められました。名古屋城本丸御殿障壁画復元模写指導者の加藤純子氏は、談話の中で、「400 年前の作品と対話しながら現代の模写作品が生まれている」と語られています。



竹林豹虎図（玄関一之間北側壁貼付絵）

狩野探幽率いる狩野派が描いたとされるその作品に感動して、その感動を模写という形で伝える一。その息を呑むほど美しい作品の数々は、本丸御殿の見所のひとつです。



金城温古録

在りし日の本丸御殿の姿を忠実に復元できたのは、先人たちの作成した数多くの史料が残されていたためでした。第二次世界大戦が始まり戦火があやぶまれた時代に、当時の職員ら
が、襖絵、天井板絵などの障壁画 1049 面を取り外し疎開させました。うち現在、1047 面は重要文化財に指定されています。また、江戸時代に記述された『金城温古録』は全 64 巻にわたり、城にまつわる細やかな記述が残されています。加えて、昭和初期の調



ガラス乾板写真

査・計測により残された 309 枚の『昭和実測図』、戦前までに網羅的に撮影されたガラス乾板写真 700 枚等、数々の豊富な史料が、復元を進めるうえで指針となりました。

400 年前初代藩主徳川義直や春姫様にご覧になったであろう鮮やかな色彩、そして檜の香り。当時と同じく完成まもない本

丸御殿を、ゆっくりと春姫様気分で堪能いただけたらと思います。

2) 名勝名古屋城二之丸庭園

～平成30年2月名勝区域が追加～



名古屋城二之丸庭園は元和年間の二之丸御殿の造営に伴って、御殿の北側に設けられた回遊式大名庭園です。

庭園は、豪壮な岩組みや急峻な地形を表現する特徴があり、また山上には大樹を茂らせ、その後方にはヒノキを密植し、一朝有事に備えての要塞として、また藩主の避難場所となるよう設計されたとも言われています。

昭和28年(1953)に、名勝に指定されました。その後の発掘調査および史料との照合の結果、庭園の跡が良好な状態で地下に保存されていることが確認され、昨年、平成30年(2018)に庭園のほぼ全域(約3万㎡)が名勝として追加指定されました。藩主が居住した御殿の庭園として日本一の規模と言われています。

元和6年(1620)頃、初代藩主徳川義直により整備された当時の庭園は、儒教の影響を色濃く反映したものになっており、この庭園を描いた絵図が『中御座之間北御庭惣絵』(名古屋市逢左文庫蔵)として残されています。その後、文政年間(1818～1830)十代藩主斉朝により大きく改修されました。区域が拡張され、御茶屋を伴う庭園や園地等が設けられて、この時期に最も隆盛を迎えたものと考えられています。またこの時期に庭園を描いた絵図『御城御庭絵図』(名古屋市逢左文庫蔵)が残されています。これらの絵図は、1枚が

畳8畳分ほどもある大きなもので、江戸時代の御庭の広大なスケールを体感でき、尾張徳川家の繁栄ぶりを伝え、復元の指標になりました。

明治期になると、陸軍省の直轄となり、二之丸御殿は取り払われ、庭園



北園池(修理された北御庭中央の園池部)

は埋められてしまい、跡地に兵舎が建設されました。幸いにも、庭の核心部である北西部は残され、その南側に新たに前庭が整備されました。

現在、復元修復工事が進められており、崩壊した石組みや荒廃した樹木の修復、また明治期に一部削られた「権現山」や「栄螺山」の山並みの景観、北園地の護岸周辺の石組みを修理しました。今後、北園地の護岸や石造物の修復、解体して保管されている御茶屋「余芳」の復元を進める予定です。また芝生広場や南池のある東庭園など、名勝に追加指定された区域についても、整備計画を策定し順次、保存整備を進めていきたいと考えています。



発掘現場説明会の様子

庭園をじっくり見ながら歩くと、他の庭に例を見ない池周りのた

たきの造形など当時の庭園技術の高さも感じとることができます。年1回、一般の方を対象に発掘現場説明会を開催していますが、学芸員から直接お庭の詳しい説明が聞ける貴重な機会として、多くの方に参加いただいています。

二之丸庭園の全域が修復整備されるには、

まだまだ年月がかかりますが、土の中に眠る江戸時代の宝物が、1つ1つ目を覚まし、殿様が楽しんだ当時の庭園の姿がゆっくりよみがえるのを、心待ちにしていただけたらと思います。

3) 金シャチ横丁

～平成30年3月29日！オープン～



正門前 義直ゾーン

名古屋の食文化、生活文化を堪能できる場所として、平成30年3月29日に金シャチ横丁がオープンしました。

名古屋城正門側に、尾張藩種初代徳川義直の名を冠した『義直ゾーン』、東門側には7代目徳川宗春の名を冠した『宗春ゾーン』として、飲食と物販をあわせて19店舗が営業しています。

平成21年以降の本丸御殿復元、全国的な歴史やお城ブーム、そしてリニアを契機とした新たなまちづくりへの期待が高まるなか、名古屋城には「入場者に対するおもてなしの場の不足」という課題が浮きあがっていました。このような背景の中に、平成23年「名古屋版おかげ横丁」のプロジェクトチームが設置されました。（「おかげ横丁」とは、伊勢神宮前にあるお蔭参りで賑わった町並みを再現し、門前の賑わいが復活した三重県の観光地です。）金シャチ横丁という名称は平成25年に公募により決定しました。

プロジェクトでは、今までの官主導の進め方を転換し、後述の名城公園（北園）の tonarino と同様、民間事業者を主体とした活

力ある事業を目指しました。事業提案の段階から民間事業者を募集し、営業施設の設置（整備）を行い、現在の運営（営業）は提案時から継続して携わっている日本プロパティマネージメント株式会社が行っています。

『義直ゾーン』では、堅実実直を重んじた義直にちなんで、名古屋の老舗及び食文化を代表する店舗、いわゆる『なごやめし』（ひつまぶし、エビフライ、味噌煮込うどんなど）



東門前 宗春ゾーン

を中心に構成しています。一方、『宗春ゾーン』では、名古屋に新風を吹き込み文化や芸術を広めた七代藩主徳川宗春にならい、この地方から全国へ躍進を図ろうとする新進の経営者が集結しました。それぞれ独自の斬新なアイデアで金シャチ横丁を盛り上げています。

金シャチ横丁のオープン後、名古屋城では天守閣が、耐震性の問題により5月より閉鎖しています。そのため、名古屋城への入場者の減少が大変心配されましたが、6月の本丸御殿の完全公開と相まって、入場者数は減少するどころか、増加を続けています。

名古屋城では、金シャチ横丁のオープンを機に再入場ができるようになりました。名古屋城へ来て、本丸御殿で名古屋の伝統文化にじっくり触れ、お昼は金シャチ横丁で名古屋の味覚に舌づつみをうち、午後は二之丸庭園を鑑賞する……。一日ゆっくり心ゆくまで、名古屋城とその周辺をお楽しみいただけたらと思います。ご来城お待ちしております！！

Tonarino

岩間造園株式会社 西崎 友美

名城公園 tonarino は、名古屋市が推進する「公園経営事業展開プラン」の民間活力導入プロジェクトの一つとして、名城公園(北園)の一部区域にて、平成29年4月に開業した営業施設です。「施設側が一方向的に提供する場ではなく、パークの来園者とコミュニティを育て、共に育みながら成長できる事業」をコンセプトに掲げ、「食」「体」「集」「緑」の4つの軸によるテナントリーシング、イベント企画を行なっています。

当敷地は、かつての名城公園の管理事務所の跡地であり、その利活用によって公園利用者の満足度を高め、公園および地域に賑わいを創出する目的で本事業がスタートしました。

開業以来、平日の昼間には赤ちゃん連れのお母様方や、ご年配の方々のカフェ・レストラン利用が多く、夜間には会社帰りのラン

ナーや企業の団体利用が多く見られます。最寄りの名城公園駅の乗降者数は増加し、また夜間の営業による地域の防犯の役割も果たしています。また、名城公園の花の植替え期に合わせてイベントを催し、公園全体と連携して賑わいを創出しています。近接する愛知学院大学とは、産学連携包括協定を締結し、本年は tonarino が主催する講演会に共催していただくなど、ご協力いただいています。

朝市や手づくり市などのイベントで賑わいを創出する「こもれび広場」や、大階段を上がると名古屋城の天守閣を望める「ひなたの(城見)テラス」(ここではヨガなども開催)といった見所もあり、また、災害発生時のための食料を備蓄するなど、ハード・ソフトの両面で地域に貢献し、市民にとって常に「となり」にある施設運営を進めています。



運営会社:	アイ・アンド・シー・コーポレーション(株) (中部土木(株)と岩間造園(株)による共同出資会社)
建築設計:	(株)マツタガ アーキテクスツァー オー級建築士事務所
ネーミング・ロゴ・サイン:	(株)日本デザインセンター
テナント	スターバックスコーヒー、GAR B CASTELLO (伊レストラン)、DEAN&DELUCA CAFÉ、ローソン名城公園店、ニシオスポーツ hasiri-Ni、さら名城(シャワー室・ロッカー)、FROG(ランニングスクール)、TAiSEiKAN(スポーツマッサージ) ※2018年12月現在
駐車場	普通車 75 台/大型バス(昼夜)1 台(予約制)
事業期間	2017年4月~2037年3月(最長)

◆2018年度イベント・活動の実例

「食」	毎週末のマルシェ開催(朝市・手づくり市、地元の柳原商店街からの出展者も有り)
「体」	名誉館長野口みずき氏を招いてのリレーマラソン大会(2018年5月5日開催)、秋の健康+げんき 大運動会(同年10月7日 2テナントとの共同開催)、野口みずき氏×望月将悟氏による対談(同年12月3日愛知学院大学にて開催)
「集」	イタリアンフェア、ワイン+アウトドアイベント【&SOTO】(2018年5月20日開催)、交通安全啓発イベント Do!Safety(同年10月8日開催)、
「緑」	年間4,000株の花の苗木の無料配布、公園の共同清掃(tonarinoテナント・名城公園フラワープラザ・地域の方々と毎月末に実施)